中学２年　国語科　教材別テスト⑥　模範解答・解説

教材別リメイク版　中学２年　国語　／　「字のない葉書」（向田邦子）／光村図書『国語２』

【このテストの使い方】

本文は載せていません。**教科書『国語２』の「字のない葉書」のページを開いたまま**解答します。この作品は、筆者が自分の家族の戦争体験を語った**随筆（回想）**です。人物の**行動**と、丸や「×」といった**記号の変化**から、言葉にされていない**気持ち**を読み取る練習に向いた教材なので、記述問題を多めにしてあります。採点は、解答欄の記述を本解答例と見比べ、下の**採点のポイント**にある要素が入っているかで判断してください（表現は例と一致しなくてかまいません）。

配点一覧

観点	大問	内容	配点
知識・技能 50点	一	漢字の読み書き（20問）	１点×20＝20点
	二	語句の知識（語の意味・慣用句・対義語・類義語・熟語の組み立て）	２点×７＝14点
	三	文法（助詞のはたらき＝種類の識別・意味用法の識別）	２点×８＝16点
思考・判断・表現 50点	四	「字のない葉書」の読解（12問）	50点
合計			**100点**

【出題のねらい】

①　助詞を**四つの種類（格助詞・接続助詞・副助詞・終助詞）**に分け、さらに「の」「が」「と」「で」の**意味・用法**を見分けられるか。

②　父の手紙の**他人行儀で威厳のある文面**と、家庭での父の姿との**ギャップ**に気づき、そこから父の人物像の**二面性**を言葉にできるか。

③　葉書の丸が**大きい→小さい→**「×」**→来なくなる**と変化することの意味を、妹の身に起きたことと結びつけて説明できるか。

④　**ふだん泣かない父が声を上げて泣いた**という行動から、言葉にされていない気持ちを「～という気

持ち。」の形で書けるか。

⑤　題名「**字のない**葉書」が象徴するものと、**回想という形式**の効果を理解しているか。

一　漢字の読み書き　（１点×20＝20点）

番号	解答	番号	解答
①	そかい	⑪	遠慮
②	いげん	⑫	郵便
③	ひっせき	⑬	約束
④	ぼうくん	⑭	荷物
⑤	ていねい	⑮	健康
⑥	あてな	⑯	涙
⑦	だ（きしめる）	⑰	厳しい
⑧	おとろ（える）	⑱	迎える
⑨	あわ（てて）	⑲	届く
⑩	なつ（かしい）	⑳	幼い

小計　20点

【注意したい字】

①「疎開」の「疎」は「そ」。「疏」と書かない。②「威厳」は「いげん」。「威」を「おどし」と読まない。③「筆跡」の「跡」は「せき」。「筆績」は誤り。⑥「宛名」は「あてな」。「えんめい」と読む誤りが多い。⑦⑧⑨⑩⑰⑱⑲⑳は**送りがなまで**必要（⑦「抱きしめる」のように送りがなだけを書く形でも正答）。⑪「遠慮」の「慮」は「虍（とらがしら）」の下に「思」。「虜」と書き誤らない。⑫「郵便」の「郵」は右が「おおざと（阝）」。⑯「涙」はさんずい＋戻。⑰「厳しい」は「厳い」としない。⑱「迎える」はしんにょう。「迎かえる」は誤り。⑳「幼い」は「幻」と形が似ているので注意。

二　語句の知識　（２点×７＝14点）

番号	解答	解説
(1)	**ア**	「威厳」＝おごそかで重々しく、人を自然に敬わせるような感じ。イの「力でおさえつける」は「威圧」の意味なので区別する。
(2)	**イ**	「他人行儀」＝親しい間がらなのに、他人に対するようによそよそしくふるまうこと。父の手紙の文面をとらえるうえで欠かせない語。
(3)	**イ**	「息をのむ」＝おどろき・感動・緊張のあまり、一瞬息が止まる。「我慢する」意味ではない。
(4)	**イ**	「目を細める」＝うれしさ・かわいらしさに、思わず笑顔になる。アの「遠くを見ようとする」は「目をすがめる」に近く、誤り。
(5)	**到着**	出発 ⇔ 到着。「帰着」でも可とする。
(6)	**永遠**	「永久」＝「永遠」。「不滅」「恒久」も意味は近いが、**漢字二字で最も一般的なもの**として「永遠」を正答とする（「恒久」も可）。
(7)	**ア**	「無事」＝上の字「無」が下の字「事」を**打ち消す**組み立て。同じ型は「不安」。イ読書＝下が上の目的、ウ高低＝反対の意味、エ白線＝上が下を修飾。

小計　14点

三　助詞のはたらき　（２点×８＝16点）

番号	――線部	解答	解説（見分け方）
(1)	**よ**	**エ　終助詞**	**文末**に付いて、話し手の気持ち・態度（断定・念押し・問いかけ・感動）を表す。「か・な・ね・よ・ぞ・わ・の」など。
(2)	**に**	**ア　格助詞**	体言（名詞）に付いて、文中での関係（ここでは動作の相手）を示す。「が・の・を・

			に・へ・と・より・から・で・や」が格助詞。
(3)	**ので**	**イ　接続助詞**	用言（活用する語）に付いて、**前後の文をつなぐ**。「ので・から・が・けれど・ても・ば・と・ながら」など。ここは原因・理由をつなぐ。
(4)	**ばかり**	**ウ　副助詞**	いろいろな語に付いて**意味を付け加える**。「は・も・こそ・さえ・でも・しか・だけ・ばかり・まで・など」。ここは限定の意味。

三　助詞のはたらき（つづき）

番号	――線部	解答	解説（見分け方）
(5)	**父の書いた**	**ア　主語を示す**	「父が書いた」と言いかえられる。「**が**」に**置きかえられる**「**の**」は**主語**を示す用法。「父の手紙」（＝連体修飾）との区別が最大のポイント。
(6)	**寒かったが**	**ウ　逆接を表す**	「寒かった**けれども**」と言いかえられる**接続助詞**の「が」。「妹が帰る」の主語を示す格助詞の「が」と混同しないこと。
(7)	**弟と**	**エ　動作を共にする相手**	「弟と二人で」＝いっしょに行う相手を示す格助詞。「『行く』と言った」のような**引用**の「と」（オ）との区別が問われる。
(8)	**筆で**	**カ　手段・方法を示す**	「筆を使って」と言いかえられる。「庭で書く」なら**場所**（キ）、「病気で休む」なら**原因・理由**（ク）。言いかえて確かめるのがコツ。

小計　16点　／　知識・技能　合計　50点

【助詞を見分けるコツ】

①　**どこに付くか**…体言に付いて関係を示す＝格助詞／用言に付いて文をつなぐ＝接続助詞／文末＝終助詞／意味を付け加える＝副助詞。

②　**言いかえて確かめる**…「の」→「が」に直せれば主語。「が」→「けれども」に直せれば接続助詞（逆接）。「で」→「を使って」なら手段、「のために」なら原因・理由。

③　同じ字でもはたらきは一つではない。「**が**」「**の**」「**と**」「**で**」「**から**」は毎年ねらわれる。文全体で判断すること。

四　「字のない葉書」の読解　（50点）

番号	解答	解説・採点のポイント
(1) 3 点	**イ（随筆）**	筆者が自分の体験や思い出を、感じたままに書いた文章は**随筆**。ア小説は作り話（フィクション）、ウ詩は行分けの短い表現、エ戯曲は上演のための脚本。この作品は、太平洋戦争末期に妹が学童疎開に出された家族の思い出を、大人になった筆者が回想した随筆である。
(2) 4 点	**イ**	父は、娘宛ての手紙で、ふだんの口調とはまるで違う**丁寧な言葉**を使い、宛名まできちんと書いていた。読んだ「私」が気恥ずかしくなるほど**他人行儀で威厳のある**文面だったことをつかむ。エ「用件だけのそっけない文面」は、ていねいさ・威厳を見落としている。
(3) 4 点	**イ**	家では短気で荒々しい「暴君」のような父が、手紙では別人のようにていねいに書く。この**ギャップ**こそが、父の**二面性**＝「厳格でありながら、子への愛情が深い」という人物像を示している。ア・エのように「愛情がない」「えこひいき」と取るのは誤り。
(4) 4 点	**（例）妹はまだ字が書けないので、毎日の元気な様子を知らせるため。（29字）**	「**妹はまだ字が書けない（幼い）**」（２点）＋「**元気かどうか（様子）を毎日知らせる・知る**」（２点）の二点で採点。 どちらか一方だけなら２点。「父が葉書を集めていたから」などは０点。二十～三十字から外れたら－１点。文末が「～ため。」でなければ－１点。
(5) 3 点	**ア**	はがき一面をうめるほどの**勢いのよい大きな丸**は、妹が元気で過ごしていることを表す。約束どおり「元気な日は大きな丸」なのだから、イ「字を覚えた」ではない。
(6) 5 点	**（例）疎開先での生活が苦しくなり、妹の体が弱っていったこと。（27字）**	「**妹が元気をなくした・体が弱った・病気になった**」（３点）＋「**疎開先の暮らしが苦しかった／食べ物が足りなかった**」など原因にふれている（２点）で採点。 「丸が小さくなった」と**見たとおりをなぞっただけ**のものは０点。**記号の変化＝妹の体の変化**と読みかえられているかが分かれ目。二十五～三十五字から外れたら－１点。文末が「～こと。」でなければ－１点。
(7) 3 点	**イ**	引き取りに行ったときの妹は、げっそりと**やせ衰えて**痛々しい姿だった。この姿が、次の（８）の父の涙に直結している。

(8) 6 点	**（例）やせ衰えた妹の姿に胸を打たれ、無事に帰ってきたことがうれしいという気持ち。(37字)**	「**やせ衰えた妹の姿を見たつらさ・いたわしさ（かわいそうだという思い)**」（３点）＋「**生きて帰ってきたことへの安心・喜び**」（３点）の二点で採点。 「**疎開させたことへの悔い**」を書いたものも、前者と同等に扱って３点とする。 「父が泣いたから悲しい」のように**行動をなぞるだけ**のものは０点。**ふだん泣かない父が人前で泣いた**という点にふれていれば、内容が整っていなくても１点加点してよい（ただし上限６点)。三十〜四十字から外れたら－１点。文末が「〜という気持ち。」でなければ－１点。

四　「字のない葉書」の読解（つづき）

番号	解答	解説・採点のポイント
(9) 4 点	**イ**	妹はまだ字が書けないので、葉書には**文字がない**。それでも丸や「×」だけで、元気かどうかという大事なことが伝わってしまう。題名は、**言葉を持たない幼い者と家族が、戦争下でそうした形でしか結ばれていられなかったこと**を象徴している。
(10) 3 点	**イ**	語っているのは**大人になった筆者**。当時は気づけなかった父の思いを、時間をへだてた今だからこそ静かに見つめ直せる。これが回想形式の効果。
(11) 4 点	**ア・ウ・エ**	イ…父が妹に手紙を書き送ったことは本文に書かれていないので×。オ…「私」は妹から来た葉書を見ており、丸の変化もとらえているので×。**ア・ウ・エの三つがそろって４点（完答）**。一つでも欠けたり、余分な記号が入っていれば０点。
(12) 7 点	**（例）戦争は家族を引き離し、幼い子どもの体さえ弱らせて、親に子の無事を祈るほかない苦しみを強いた。（46字）**	**【ルーブリック】** **・７点**…①家族が離れて暮らさざるをえなかったこと、②幼い者の命や健康が危険にさらされたこと、③家族が互いの無事を願うしかなかった（思いを伝え合えなかった）こと、のうち**二つ以上**にふれ、字数と文のまとまりがそろっている。 **・５点**…上の①～③の要素が**一つ**は書けているが、もう一つがあいまい。 **・３点**…「戦争はよくない」「かわいそうだ」など**感想だけ**で、家族に強いられたものが具体的に書けていない。 **・０点**…無記入、または本文と無関係な内容。 ・字数（四十～五十字）から外れたら－１点。

思考・判断・表現　合計　50点　／　総合　100点

【この教材で落としやすいポイント（８つ)】

1. この作品は**随筆（回想)**。語っているのは、**大人になった筆者**であって、当時の子どもの「私」ではない。
2. 冒頭の手紙の話は、ただの思い出話ではない。**他人行儀で威厳のある文面**を先に見せておくことで、のちに**声を上げて泣く父**との落差が生きてくる。構成の工夫に気づくこと。
3. 父の人物像は「こわい人」ではなく**二面性**。家では短気な「暴君」でありながら、言葉や文字、そして涙に**深い愛情**がにじむ。どちらか一方だけで答えると減点される。
4. 丸を書かせたのは、妹が**まだ字を書けない幼さ**だったから。「父の思いつき」ではなく、**必要にせまられた約束**である。
5. **大きな丸 → 小さな丸 → × → 便りが来ない**という変化は、妹の**体と暮らしが追いつめられていく過程**そのもの。記号の見た目をなぞるだけでは０点。
6. 父が泣いたのは、**悲しみ一色ではない**。「よく帰ってきた」という**安心と喜び**と、やせ衰えた姿への**いたわしさ・悔い**が重なっている。二つの方向を書くこと。
7. 題名の「**字のない**」は欠点ではなく、**言葉にならない思いが伝わってしまうこと**を表す。ここが題名を問う問題の核心。
8. 気持ちを問う記述では、**行動をなぞるだけでは０点**。「〜という気持ち。」「〜こと。」「〜ため。」と、**設問が指定した文末**でしめくくること。